

7月14日（月）

道を整えよ

聖書朗読 イザヤ 40：1～10

荒野に呼ばわる者の声がする。「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために大路を平らにせよ。」
イザヤ 40：3

「主の道を整えよ」。これは、極めて重大な出来事が行われるように、あるいは、とても影響力のある方がやってくることができるように、準備をしておく必要があることを示しています。アフリカでは、こうした古い伝統が今でも残っています。高貴な方々や丁重に扱うべきゲストがやって来ると、その町の人々は列をなして道を作り、訪問者が到着すると、彼らをほめたたえ、期待と興奮が絶頂に達して歌を歌い、枝を振ってお迎えするのです。

バプテスマのヨハネは、ヨハネ1：23で、やがて来られる主のために、道をまっすぐにせよと荒野で人々に叫んでいたのです。彼は説教を通して、人々の思い、態度、そして心を、主の教えを受け入れられるよう整える役割を果たしたのです。

ヨハネがこのように道を整えたので、多くの人々の心が開かれ、主を信ずる者とされたのです。これらの人々は主がやって来られることを期待して待ち望み、やがてイエス様が宣教を始められたとき、多くの人々がイエス様のみことばを喜びをもって受け入れました。私たちが心を開いて神様のみことばを受け入れるためには、その前に整えられる必要があるのです。私たちの側で期待と喜びをもって待ちのぞむなら、私たちが心から主を信じ、主が私たちの内に入って来られたときに受ける喜びがさらに増し加えられることでしょう。

讃美歌 417

祈り 親愛なる主よ。どうかあなた様のみ声を聞き、私たちの心のうちにイエス様を喜んでお迎えし称えることができるよう道を備えさせてください。あなた様の教えを心から喜ぶことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

コニー・シンプキンス・トーマス
ケンタッキー州 マウントワシントン

今日の力

2014年7月14日～7月20日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月15日(火)

みつばさのかげに

聖書朗読 イザヤ 40:21~31

だちょうの翼は誇らしげにはばたく。しかし、それらはこうのとりの羽と羽毛であらうか。
ヨブ 39:13

先日私はテレビで昔の殺人ミステリーを見ました。被害者の飼っていたオウムがその遺体のそばを行ったり来たりして、こう繰り返すのです。「撃たないでくれ。ヘレン」。不幸にもこのヘレンは、自分の犯した罪でもないのに法廷に立たされることになります。しかし結局、このオウムはすり返られたものであり、真犯人がこのオウムにことばを教え込んでいたことが分かったのです。ヘレンを犯罪者に仕立てあげるために。そして、その犯人は捕らえられました。

皆さんも鳥に関する様々な表現をご存知でしょう。類は友を呼ぶ(birds of a feather flock together)、手にした一羽の鳥は空を飛んでいる鳥よりはましだ(a bird in the hand is better than one in the bush)、風の便りに聞いた(a little birdie told me)など。そしていまや、インターネットはツイートやツイッターで溢れています。

ノアは箱舟から鳩を放ちました(創世記8:8)。鳥がエリヤに食糧を運びました(I列王記17:6)。イエス様は、めんどりがひなを翼の下に集めるように、エルサレムを集めようとされました(マタイ23:37)。

ストレスと不安に苛まれるとき、私たちはこのおとりのオウムのように落ち着かずに行ったり来たりして、緊張して大声でわめきたてたりする必要はないのです。このみことばによって癒されるでしょう。『あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、砦である。』(詩篇91:4)

讃美歌 第二編 104

祈り 親愛なるお父様。ストレスに苛まれても、あなた様が癒し守ってくださり、永遠にそしていつも助けてくださることを感謝します。
イエス様のお名前によって。アーメン。

ケーサ・ウィンザー
カリフォルニア州 サンディエゴ

7月16日(水)

希望のしるし

聖書朗読 エレミヤ 32:6~15

…望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。
ローマ 8:20-21

エレミヤは、最悪のタイミングで土地を購入しました。その時エルサレムは包囲されていたのですが、他の人々が悲惨な結末を疑っても、エレミヤにはその町の運命について、他の人々には明らかにされていないしるしが神様から与えられていたのです。なぜエレミヤはあのような愚かとも思える土地の購入をしたのでしょうか。

私は近所を歩いていて道端にごみが落ちていたら、拾ってゴミ箱へ入れることにしています。そうすることにはいくつも理由がありますが、一番の理由はそこに希望があるからです。

私一人の努力では地域の小さな問題を解決することは出来ないし、そのような行為について誰かが私を賞賛してくれるわけでもありません。けれどもエレミヤのように、私も将来神様が成してくださることに確固たる希望を持っているのです。エレミヤは愚かと思われる土地の購入をしましたが、それは希望のしるしだったのです。神様は、国を追われた後、再び国が回復され土地の売買がなされる時がやがて来るとおっしゃっていたのです。

私たちの周囲の様子を見回すと、神様があらゆるものを回復してくださる時を待ち望んでその期待でいっぱいになります。私は、ぺしゃんこになった缶を拾い上げながら、いつかこんな事をしなくなる日が来るという希望の証をしています。

今日何をするかを考えて、それを、神様が約束されたことに根ざして、明確な証としましょう。

讃美歌 第二編 43

祈り 親愛なる主よ。あなた様の手による被造物が、完全に贖われ回復されるのを待ち遠しく思います。私の今日の行いを希望の証とし、私の心をあなたへの喜びで満たしてください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

イアン・K・シェルブルン
テキサス州 アビリン

7月17日(木)

希望と瓦礫

聖書朗読 哀歌 3：15～26

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。 ローマ 5：5

エレミヤの哀歌は、完全に破滅してしまうような暗闇の状況をこのように描いています。『主は私を苦味で飽き足らせ、苦よもぎで私を酔わせ、私の歯を小石で砕き、灰の中に私をすくませた。私のたましいは平安から遠のき、私はしあわせを忘れてしまった。』（哀歌3：15～17）

これ以上鮮烈な言葉でこの状況を言い表すことができるでしょうか。人生がこれほどまでに完全に破滅してしまうような経験をしたことがありますか。かつて人生を約束されていたその場所が灰と瓦礫となり、その只中に自分が座っているなどということがあるでしょうか。

しかしながら驚くことに、心が打ちひしがれてこのように詠んだ哀歌の中で、エレミヤはこう語るのです。『私はこれを思い返す。それゆえ、私は待ち望む。私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は力強い。主こそ、私の受ける分です」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。』（哀歌3：21～24）

エレミヤは心が打ちひしがれた私たちすべてに語っています。私たちの神様は助けであり贖ってくださる神様なのだと。一度や二度でなく、永遠に私たちを助け回復してくださるのだと。

ですから、勇気をもって奮い立ちましょう。涙をぬぐって神様を称える声をあげましょう。挫折という瓦礫の中に置かれても、神様の愛といつくしみは、私たちのために働かれるのです。

讃美歌 183

祈り お父様、エレミヤの経験を通して、たとえ私たちにのしかかる破滅や失望という瓦礫の中に置かれても、絶えず希望があることを示してくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

パット・アンドリュース
テキサス州 アビリン

7月18日(金)

神はともにおられる

聖書朗読 ダニエル 3：8～16

しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。 ダニエル 3：18

自らの言動について呼び立てられお叱りを受け、釈明を求められるようなことはないでしょうか。そのような状況は自分にとってピンチとなる場合があります。けれども、あのイスラエル人の3人の若者、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴのように、自分自身で釈明しなくてもよい時があるのです。イスラエル人の3人の若者は、ネブカデネザルが立てた金の像に仕えることも拝むことも拒みました。彼らの神のおっしゃった「わたしの他なにものをも神としてはならない」という戒めに忠実だったからです。

彼らは、偶像を拝むことを拒んだことについて釈明するよう呼び立てられたとき、「ネブカデネザル王よ、私たちはこのことについて、あなたにお答えする必要はありません」と答えるのです。そこで王は、火の燃える炉の中に彼らを投げ込むのですが、王が炉の中を覗き込むと、そこには4人の者が歩いているのが見え、そのうち第四の者は「神々の子のように」見えたのです。

イエス様はインマヌエルであることを覚えていましょう。「神は私たちとともにおられる」のです。神様が私たちを困難からすぐに救ってくださる時も、困難を耐え忍ぶようにその時すぐにお救いにならない時でも、神様はともにおられるのです。それを信じられますか。信じます。危険を逃れるときには、主にある新しい世にある喜びをもって、その困難から解放されることでしょう。どんな状況にあっても、神様は私たちとともにおられるのです。神を称えましょう。

讃美歌 312

祈り 主よ、キリスト・イエスにあつて、あなた様が永遠に私たちとともにいてくださるという約束を感謝します。イエス様のお名前によって、あなた様の聖霊のご臨在を確信します。

ビル・ヘネガー

カリフォルニア州 ウェストレイクヴィレッジ

7月19日(土)

壊れた関係

聖書朗読 ホセア 4：1～3

この地には真実がなく、誠実がなく、神を知ることもないからだ。 ホセア 4：1

この時代は壊れた関係であると言い表されています。ホセアは、神の創造されたものと人間との関係が壊れていると語り、土地も動物も弱り果てているとしています。私たちが大切にしないために、神の創造されたものが苦しんでいると言っています。

しかし、なぜ人間と神の創造されたものとの関係が壊れてしまったのでしょうか。私たち人間同士の関係が壊れているためです(2節)。ホセアは、十戒の後半に触れ、私たちの互いの関係について、のろいと、欺きと、人殺しと、盗みと、姦通がはびこっていると語り表しています。ここには、私たち人間が、お互いの係わり合いと同じ様に周囲の環境とも関わっているということが暗に語られています。アフリカにはこの関係をうまく表現したことわざがあります。「2頭の雄牛が争ったなら、被害を受けるは牧草だ」。

ではなぜ私たちは互いに誤った関わり方をしてしまうのでしょうか。ホセアはこの問題の核心を明らかにしています。神との関係が失われているからだ。そこには真実も愛も神を知ることもないと(1節)。ホセアは、私たちの互いの関係や周囲の環境との関わり方が、私たちの神との関係を映し出すと言っています。ホセアは、私たちが神を愛するとき、他者を愛し、造られたこの世を大切にできるようになることを語っています。

讃美歌 第二編 11

祈り 親愛なる神なる創造主よ。あなた様がお造りになったこの世を大切に管理することができるよう祈ります。あなた様の造られたもの、人もそれ以外のものも、同じ様に大切にすることができるようにしてください。今日あなた様との関係を深めることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デイブ・ブランド
テネシー州 メンフィス

7月20日(日)

安全地帯

聖書朗読 ホセア 8：1～10

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。 詩篇 46：1

ホセアの意味は訳すと「彼が助けた」であって、神がその助け主なのです。ホセアは、イスラエルの民に神の愛に立ち返るよう諭しましたが、彼らは繰り返しそれを拒んだのです。私が子どもの頃遊んだゲームに「リーダーに従って。サイモンが言っている」というものがありましたが、残念ながら、イスラエルは誤ったリーダーに従っていたのです。彼らはそれを望んだのでしょうか。それとも単に忘れてしまっていたのでしょうか。

いずれにせよ、彼らは罪の深みへと落ちて行っただけです。誰でも、「自分で望むことは何でもできる」と言いたい場合があるでしょうし、そのような誘惑は至る所にあります。けれども、私たちがすることは私たちが何者なのかを映し出すものです。私たち自らが選ぶものによって、神に近づくこともできるし、神から私たちを遠ざけてしまう場合もあるのです。イスラエルの民は自分たちがどのような存在であるかを忘れてしまったようです。ホセアが、彼らの真の姿についてどれほど語り続けたかにもかわりません。ホセアは、彼らが真実、そして、神とのご契約に立ち返って、悔い改めるよう促しました。

今日、イエス様は私たちに「私のもとへ来なさい」とおっしゃっています。私たちは喜んで、そして、謙虚な思いを持って応えることができるでしょう。私たちはイエス様の呼びかけを聞き、近づくことができます。

イエス様が宣教においてよく使われた2つの言葉があります。「来なさい」そして「行きなさい」です。もしあなたが行かないのであれば、来ることには意味がないし、あなたが来ないのであれば、行くことには意味がないのです。

讃美歌 第二編 232

祈り 親愛なる主よ。あなた様が、困難なときだけでなく、私が必要なときはいつでもすぐそこにおられる助けであることを、思い出させてください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

アンドレア・ニモンズ・スミス
フロリダ州 ジャクソンビル